ISSN 0289—9302

TOYO UNIVERSITY LIBRARY INFORMATION BULLETIN

KOΣMOΣ

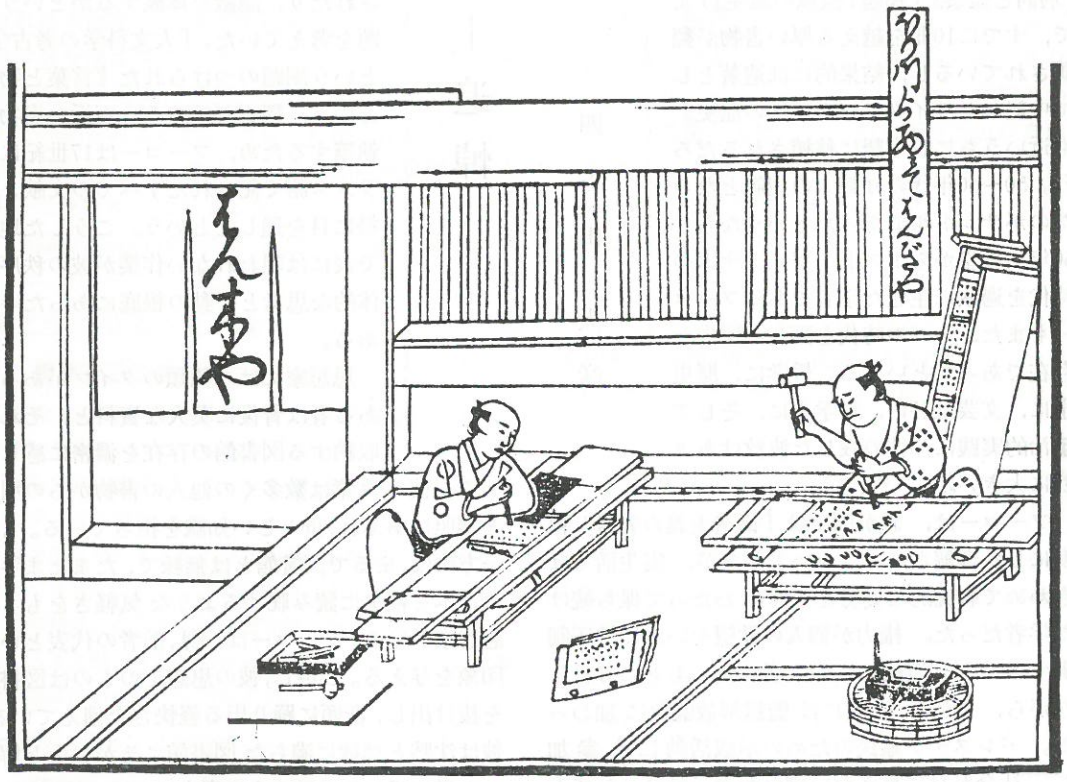
コスモス No. 67 1984 秋

東洋大学創立100周年記念

本学は1987年に100周年を迎えます

特集 I 愛 図書館

四方田犬彦
吉岡 晃
星 流子
鈴木 望



江戸時代，京都下立売通の板木屋の風景〔「京雀」，寛文5年刊。稀書複製会本より転載（291.62：AR）〕

あ

フーコー追悼

四方田犬彦

今年の6月，まったく突然にミシェル・フーコーが世を去ってしまった。57歳だった。

フーコーの名前はわが国でも，つとに知られている。およそ人文科学の研究に携わる者で多少とも現代社会における知識のあり方，流通の仕方，統御と検閲のシステムについて物を考えることのあった人ならば，必らずやフーコーの発言に注目し，何らかの影響を受けてきたはずである。初期の『臨床医学の誕生』から『刑罰と監禁』（邦題『監獄の誕生』）まで，すでに10冊を越える厚い書物が翻訳されているし，結果的には遺著として中絶したライフワーク『性の歴史』も近いうちに日本語に移植されるだろう。50～60年代の知識人の規範となったのがサルトルであったというなら，60年代後半からポスト・ヴェトナムの時代を過激に生きた学者であるフーコーもまた，一つの時代を画した巨大な存在であったといえる。哲学に，歴史学に，文芸批評に，科学史に，そして政治的実践に，彼の残した波紋はあまりに大きい。

フーコーは，わが国では「構造主義の元祖」程度にしか理解されていないようだが，実生活ではきわめて戦闘的な姿勢を生涯にわたって保ち続けた学者だった。権力が個人の欲望をいかに抑圧制御するかを19世紀の一殺人者の例をもとに分析しながら，同時に現実には監獄解放闘争に加わった。パレスチナ難民のための示威活動にも参加し，社会が目に見えない細かな次元でファシズムに組み込まれてゆくことに多く警世の言を発し続けた。一生を独身で通し，ホモ・セクシャルであることを隠そうともしなかった。

では，彼は今日風のファッショナブルなインテリ族であったかというと，まったく誤解したことになるだろう。フーコーはつねに図書館の人だった。まるで薄暗いパリ国立図書館こそが住居であるかのように，朝早くから夜遅くまで孤独に古文書を読み耽り，諸々の時代を通して知識というものが人々の間でどのように制約されたり，隠蔽を体験するかという問題を考えていた。「人文科学の考古学」という副題のつけられた『言葉と物』という，翻訳だけで500頁近い書物を執筆するため，フーコーは17世紀にフランス語で記されたすべての文献と資料に目を通したという。こうした地味で表には現われない作業が彼の秩序解体的な思考と行動の根底にあったのである。

思想家には二種類のタイプがある。ある者は背後に莫大な資料と，それを収納する図書館の存在を濃密に感じさせる。彼の文章は数多くの他人の書物からの引用と参照にあふれ，重々しい知識を担っている。もう一方には，まるで図書館とは無縁で，たまたま手にした本を軽快に読み耽けるような気軽さをもった思想家がいる。フーコーは一見，前者の代表という印象を与える。しかし，彼の思想そのものは図書館を抜け出し，街頭に踊り出る軽快さを備えている。彼は沈黙と禁欲に満ちた図書館こそが自由と解放への道に通じていることを熟知していたのである。

（文学部講師　よもた・いぬひこ）

なたも好　きになれ

図書館嫌いの利用上手

吉岡　晃

独楽回し，面子，紙芝居といったものが最高の娯楽であった小学生の頃，町の図書館で本を読むことは，それらに匹敵するほど私を興奮させる遊びの一つであった。何度も読み返した「海底二万哩」，友人と一緒に驚嘆の声をあげた「恐竜大図鑑」などは，今となっては懐かしい思い出である。私と図書館との出会いは，必ずしも不幸なものではなかったのだ。昔ハヨカッタナー。

しかし，長じるにつれて図書館との関係は希薄になっていった。その後久しぶりに図書館に足を踏み入れたのは高校三年の時であった。受験生にとっては，図書館に行くということは本を読んだり資料を調べたりすることではなく，そこで受験勉強をすることであり，真面目な閲覧者で狭い図書館が混雑している時，この不真面目な利用者は，図書館に本が一冊もなかったらどんなにゆっくり利用できるだろうかと勝手に考えたものだった。

やっと入った大学では，図書館をよく利用した。と言えば聞こえは良いが，牌を並べる指には全く自信がなく，一杯のコーヒーで彼女を退屈させないような話題も持ち合わせていなかった当時の私にとって，唯一の暇潰しの場がそこにあったのだった。そう考えてみれば，図書館というのは，私の憩の場であるとともに，悲しくも惨めな場所だったのかもしれない。その痛手を学問に向ける余裕があったならば今ごろ……。今ゴロ頭ガ壊レテイタカモネ。

専門課程の授業が始まりその内容も益々難しくなってくると，図書館の文献を利用しなければ，授業の内容を理解することもレポート一枚書くこともできないという事実に遭遇した。しかし，あの厳めしいレンガ造りの建物の中へ，無愛想な館員の前をそっと通り過ぎ，薄暗い書庫に入って行くには随分と勇気がいることであったのだが……。なるべくなら入らずに済ませたいものだった。しかし，中へ入ってみてまず蔵書の厖大さに感嘆の声をあげ，続いて閉口した。決断力のない私にとって，同じようなテーマの本が何冊もあることは，レポートを書くうえで必ずしもプラスにはならなかった。くたくたになって必要な三冊を選び出す頃には，それらの本を読む気力はもうなくなっていた。それでも，翌日から眼光紙背に徹するとは言わないまでも一応は真剣に読み進むとき，返却日に間に合わないという事態に陥ることが度々あった。しかし，私の大学図書館には，返却日が一日遅れる毎に10円を支払わなければならないというなんとも恐ろしい規則があり，半分も読み進んでいない本を返却せざるを得ないことも度々あった。私ノ支払ッタ60円ハドノヨウニ使ワレタノダロウカ。

自分が悪いのか図書館が悪いのか，残念なことに私は今まで図書館を上手に利用してきたとは言えない。もし，小学生の時に経験したあの図書館が，再び私の前にもどってくるならば，私は喜んでそこに入って行くだろう。しかし，それが不可能な今は，当分の間，図書館といかに上手につき合ってゆくか，図書館をいかにうまく利用するかということを考えてゆかなければならないと思っている。図書館嫌いの利用上手がいても別に不思議ではないだろう。

（本学職員　よしおか・あきら）

る！

近頃思うことども

鈴木　望

盛夏の徒然を慰める為に図書館を利用するのが私の毎年の習いである。調物がない折哲学堂文庫の書籍を読む。此の楽しみを与えてくれるのは，開館日が多い故であろう。K学院等は，夏期休暇中は開館しないと聞く。これでは大学図書館としての機能を果しているとは言えない。開館日が多いのは本学図書館の方々の御努力がある。そんな思いを抱きながら，古城坦堂先生の詩文を読む。先生が編輯した『廻瀾集』は残念ながら第一編しか所蔵されていない。『廻瀾集』は日本漢文学史の上から見ても重視されるべきものである。本学図書館に本学縁の先生方の書籍が所蔵されていない事が少なくない。カードを引き所蔵されていない事がわかった時，何とも言えない複雑な気持を覚えるのは私だけであろうか。また，目録カードで常に思うのは，カードを詳細に書いて頂きたい事である。一例を示すと，『和刻本経書集成』なる叢書があり，カードには「正文之部」1～4，「古註之部」5～7と記してあるが，具体的に何なる書物が収められているか解せない。改善を望む次第である。

図書館に対する不満・注文を書けとの御下命を被り，素より適任でない事を承知で書かせて頂いた。礼を失していると思われる点も少なくない。御容赦をを請う次第である。

（大学院生　すずき・のぞみ）

センチメンタル・図書館

星　流子

朝，大学図書館へ行く。それが，大学時代の私の1日の始まりであった。あこがれのひとり暮しをしたものの，狭い下宿にひとりでいるとどうしても煮つまって暗くなってしまう。かと言って外を出歩くにはお金が十分にない。そこで目をつけたのが大学図書館だったわけだ。図書館に行けば人の息吹きが感じられる。夏は涼しく，冬暖かい。朝から晩まで居坐っても文句は言われない。偶然友人に会うこともあるだろうし，しかもただなのである。区立などの公共図書館だとこうはいかない。予備校生は席を陣どる，アベックは離れない，ガキは騒ぐ，猫は鳴く，大八車は飛んでくる，でもう大変。そういうわけで，私はほとんど毎日，大学図書館へ行った。その日1日に済ます仕事――例えば，整理しなければならないノート，読みたかった雑誌，書きかけの手紙など――をバッグにつめて，雨ニモマケズ，風ニモマケズ，せっせと通った。

大学図書館の中で私の最も好きな場所は，4階の第4閲覧室だった。窓が大きく，景色も良く，広々としていて気持が良い。それに，皆の暗黙の了解があるのか，とても静かなのである。（これと対照的に3階第3閲覧室は，暗黙の了解で，騒いでよいことになっているらしい。）だいたいいつも4閲で，夜9時すぎに追出されるまで粘っていた。こう書くといかにもまじめな学生のようだが，一日中館詰めだったわけではない。朝，図書館へ行き，朝刊を読んでから荷物をロッカーに預け，美術館とか本屋へ行き，夕方帰ってくるとか，昼間，友人と喫茶店へ行くとか，ひどい時になると，夕方友人に誘われて飲屋へ行き，閉館時間ぎりぎりに荷物をとりに戻ることもあった。

今，ふり返ってみると，私のしたことは図書館の正しい利用からは程遠いような気もするが，屋上から見た夜の星や冬の富士山，いつも4閲に来る美少年など，どれも私の大学時代の美しい思い出は図書館にまつわっているのである。

（校友　ほし・りゅうこ）

図書館 あ・ら・かると

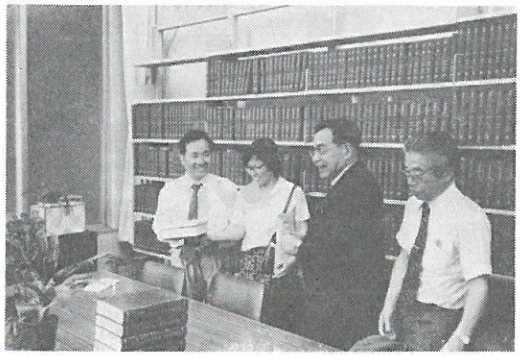
★白山だより★

中国社会科学院代表団来館

本学図書館では中国からのお客さまをお迎えいたしました。お客さまは，中国社会科学院語言研究副研究員，李臨定氏と同じく助理研究員，江藍生女史のおふたりです。

この方々は日本学術振興会の招きにより来日されました。これは，「日本学術振興会と中国社会科学院との間の学術交流に関する覚書」に基づくものです。この覚書は，「平等の原則に基づき人文科学，社会科学の全分野において，両国研究者間の交流を促進」して，「両国研究者が相互の連携を緊密化し，研究の成果と情報の交換等を行い，及び相手国において学術研究に従事することを目的とする」ために取り交わされたものです。今回来日された李臨定，江藍生両氏も，この覚書に基づく科学者交流事業の一環として7月2日より16日まで滞在し，東京，京都，大阪，神戸の大学，研究所を訪問されました。そしてわが東洋大学もその訪問先のひとつに選ばれ，文学部教授金岡照光先生をおたずねになりました。

李臨定氏は現代中国語の文法，江藍生女史は中国語，特に古代口語の語彙を専攻されております。



7月5日に来学されたおふたりは，第二会議室で行われた研究講演会に出席し，李氏が「介紹中国当前漢語語法研究的情況」，江女史が「精校<敦煌変文集>芻議」の題目で講演されました。また，午餐会，研究交流会に出席されたのち学内見学にうつられ，図書館にも立ち寄られました。図書・整理両課長の案内で，金岡照光先生，今冨正巳先生，中下正治先生らと一緒に図書館内を見学されました。図書館見学ののち，大川信明図書館長を交えて親しく懇談しました。その席上，大川館長より本学図書館蔵書目録，雑誌所蔵目録が贈呈されました。これに対しておふたりからは「価格のつけられない貴重な宝物です。語言研究所の研究員も感激するでしょう」との謝辞をいただきました。

おふたりの訪問は，なごやかでしかも友好的な雰囲気の中で終わりました。

★工学部分館だより★

書庫拡張工事おこなわれる

自然科学系図書館は，蔵書の大部分を雑誌が占め，その増加が著しいことを特色とします。

昭和52年の増設工事で9.7万冊の収容能力を保有しましたが，遂に限界を越えたために，今夏7年ぶりに増設工事をおこないました。分館長室，荷解室，事務室の一部をピロティに移し，書庫に転換しました。

この結果，収容能力は13.5万冊となり，従来に比較して，3.8万冊の余裕ができたことになります。なお，書架の設置は来春になる予定です。

★朝霞分館だより★

辞書体目録が分割目録に変身！

和書と洋書を区別し，著者目録，書名目録が独立しました。但し件名目録（本の主題，内容を表わす言語で探す目録）は和洋混配です。配列はＡＢＣ順，ローマナイズはヘボン式です。分らないことは何でも係にお尋ねください。

視聴覚貸し出し用資料が増えます

○音楽カセット―クラシック36巻―ポピュラー36点，○語学テープ19点，○ビデオ英会話・英作文各6巻，その他多数がはいってきます。詳しい内容は新着案内の掲示を見て！……乞うご期待!!

ペーパーバックの元祖，登場

レクラム文庫はこの手のシリーズではドイツ最古最大の実力を示しています（1867年創刊）。日本では岩波文庫がこれにならい出版されました（1927年創刊）。どうぞご利用ください。

「ナルタン版チベット大蔵経甘殊爾目録；IASWR 発行マイクロフィッシュ版による」の作成を終えて

1 「チベット大蔵経」とは

「チベット大蔵経」というのは，チベット語による仏教経典を集大成したもので，現在幾種類かの版が知られています。本学図書館ではそのうちデルゲ版と北京版の複製を所蔵しており，ナルタン版についても，IASWR（世界宗教研究所）発行のマイクロフィッシュ（2404枚）が，先般購入されました。

2 大蔵経の目録類

上記デルゲ版と北京版については，それぞれ東北大学と大谷大学から立派な目録が出版されています。しかしナルタン版は，大正大学の壬生台舜先生や長島尚道先生が経典番号による整理をされた目録があるのみで，これまで他に検索の手段はありませんでした。

3 図書館のしごと

今回のマイクロフィッシュによるナルタン版甘殊爾にも，残念ながら検索用の目録・索引類は付いていません。したがって2404枚に及ぶフィッシュのどこにどんな経典が収められているのかを探すのは大変困難でした。そこで図書館では，利用者が求める経典をすぐに探し出せるよう，冊子体の目録を作りました。このように，利用者がより効率的に図書館の資料を使う事が出来るよう，様々なツール（調べものをする為の道具）を整えるのも図書館の大切な仕事の一つなのです。

4 目録作成の経過

先にも述べたとおり，ナルタン版甘殊爾の経典番号による目録は既に作られていました。そこで図書館ではまず長島先生の御了解を得て，先生の目録にしたがいながら，北京版目録のコピーをナルタン版の順番通りに並べて切り張りをし，仮目録を作りました。次に，大学院生の島田茂樹さんにマイクロフィッシュを実際に見ていただきながら，760タイトル全ての経典名・翻訳者名・ページ数等が切り張りの仮目録と相違ないかどうか確認してもらいました。そして最後に目録本文に若干の加筆訂正を施し，凡例や参考文献等を付け，目録を完成させた訳です。その間，文学部教授の大鹿実秋先生にはいろいろと御教示を賜りました。

5 目録の利用について

この目録は，本学図書館で購入したマイクロフィッシュの利用促進のために作った，言わば内部資料で，本文は電子コピー，手書きの表紙に簡易製本という，手づくりのものです。しかし経題付きのナルタン版目録が出来たのはおそらく日本で初めてのことだと思われるので，この方面の研究者の役に立てばと思い，仏教関係のいくつかの研究機関に寄贈しました。学内では印度哲学科の研究室と図書館参考室，カウンターに備え，皆様の御利用をお待ちしております。

（整理課・小笠原記）

≪本学図書館が所蔵する主なチベット大蔵経≫

1 影印北京版西蔵大蔵経 東京，西大蔵経研究会，昭和30—36年，198冊 33cm.
〔183：C〕

2 Tibetan Buddhist Canon ; the Nyingma edition of the sDe-dge bKa'-'gyur and bs-Tan-'gyur. Oakland. Dharma Pub., c1981. 120vol. 27×38cn.
〔183:B-4:3〕

3 Narthang Kanjur. New York, Instute for Advanced Studies of World Religions, 19--. 100 vol. in 2404 sheets. 10.5×14.7cm. Microfiche.
〔M183:B-4:4〕

▶編集後記◀

なにはなくともコスモス。3時のオヤツにコスモス。食前，食後にコスモス。お弁当も包めます。

TOYO UNIVERSITY LIBRARY INFORMATION BULLETIN ΚΟΣΜΟΣ
1984 秋（No. 67）1984年10月20日発行 編集：コスモス編集委員会 発行人：大川信明 発行所：東洋大学附属図書館 東京都文京区白山5丁目28番20号 Tel.（945）7314